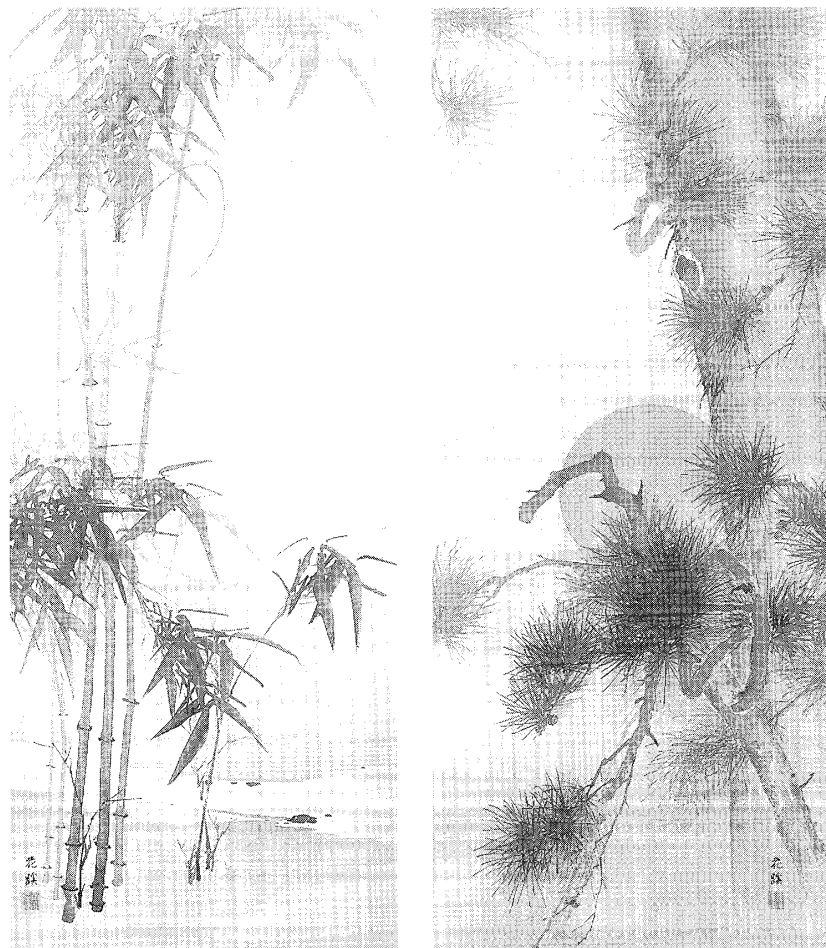


表紙作品解説



松間旭日図 竹林秋月図 双幅 跡見花蹊筆

明治43(1910)年 各130.0×56.0cm
絹本墨彩 跡見学園女子大学花蹊記念資料館蔵

日月を一對にした作品である。

右幅は、朝日がびたりと松の背後に位置を定めたときの一瞬を見事にとらえている。松は天に向って伸び、一方では水引細工のように枝が絡み合っている。松の葉や小さな実は、丁寧に描き込まれ、朝日を受けている画面下部から、薄闇に溶け込む上部は濃淡を駆使して表現されている。鮮かな朱色が清新な印象を与える。

左幅は、水辺にすらりと生える竹と、上弦の月を表現している。全体は霞で包まれたような微妙な色調－水辺の薄墨から月を取り巻く青色へのグラデーションを持ち、月影に照らし出された竹は幻想的な雰囲気を醸し出している。跡見花蹊71歳の作である。円熟した筆致が、しみじみとした情感を想起させる。

これらの作品は、天長節(明治43年11月3日)に揮毫し、親交のあった久米民之助(実業家、政治家 1861-1931)へ納めたものであることが、箱書きや跡見花蹊の日記から伺える。久米氏はこの年の5月に代々木上原に能舞台のある自宅を新築しており、まさしく旭日昇天の勢いであった。跡見花蹊が彼の一層の発展を願い制作した、双幅の佳作である。

写真提供：跡見学園女子大学花蹊記念資料館
文：学芸員 渡辺 泉